

南半球のリンゴ輸出が増加の予想

FRUITNET 2024年2月12日

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)が発表した新しい予測によると、南半球の主要輸出国6か国(アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、ニュージーランド、南アフリカ)は、2024年に前年比1.1%増の478万トン弱のリンゴを生産するものと見られる。

同グループは、ベルリンのフルーツロジスティカ展示会の場で開催された年次総会でこの予測を行い、同じ6か国における今年のナシ生産量については、同2.3%減の約147万トンと予想した。

リンゴについては、南アフリカが140万トン(+4.6%)で引き続きグループ最大の生産国であり、ブラジル(110万トン、横ばい)、チリ(91万2千トン、-8.4%)、ニュージーランド(55万7,871トン、+14.7%)、アルゼンチン(50万1千トン、-4.8%)、オーストラリア(30万8千トン、+5.8%)が続いた。

品種別では、ガラが158万トンで南半球の収穫量の中で最も多く、これは2023年の数字に近いが、過去3年平均を11.4%下回っている。

輸出量は、5.1%増で57万2,280トンの南アフリカと、5.3%増で49万3千トンのチリが牽引し、合計では8%増の155万トンと予想されている。

ニュージーランドからの輸出も22.2%増加し、38万1,729トンとなる見込みである。一方、アルゼンチン(7万トン、-4.1%)とブラジル(3万2千トン、-10.6%)では減少すると予測されている。

2024年1月1日時点の欧州のリンゴの在庫量は385万トンで、2023年の期初在庫に比べ4.6%減少した。一方、米国の在庫量は前年比33.6%増の214万トンとなっている。

ナシは減少

アルゼンチン、チリ、オーストラリアのナシ生産者は、それぞれ61万4千トン(-6%)、20万3千トン(-5.4%)、7万2千トン(-2.7%)と、生産量の減少を予想している。

一方、南アフリカの生産量は56万7,334トン(+3.4%)に増加し、ニュージーランドは9,066トン(+8.4%)に増加する見込みである。

品種別では、引き続きパッカムズトライアンフ(50万8千トン、-1.3%)が最も多く生産される品種であり、ウィリアムズボンクレティアン(30万82トン)がそれに続く。推定輸出量は65万4,300トン強で、昨シーズンと同水準となっている。

2024年1月1日時点の欧州のナシの在庫量は、前年比4.4%減の58万2,587トンであった。ナシについても、米国では16万9,474トン(+14.9%)と在庫量が増加した。

新会長を選出

この会議でWAPAは、北西部ナシ協会(米国)のジェフ・コレア氏を新会長に、ホルトグロ(南アフリカ園芸生産者協会)のニック・ダイシー氏を副会長に選出した。(以下一部省略)

ヨーロッパ(北半球)のリンゴとナシの関係者の年次総会が開かれる次回プログノスフルーツ展示会は、2024年8月7日～9日にハンガリーのブダペストで開催される。

WAPAの年次報告書は、CAFI(アルゼンチン)、APAL(オーストラリア)、ABPM(ブラジル)、Fruits from Chile(チリ)、New Zealand Apples and Pears(ニュージーランド)、Hortgro(南アフリカ)の各団体の支援を受けて作成された。

執筆者: マイク・ノールズ